



日本映画学校

第22回 卒業制作上映会

2月26日[金]—28日[日] 会場：スペースFS汐留



卒業制作の季節が来た! ●●

毎年二月は校長として最も興奮する季節である。学生たちの三年間の修行の成果である卒業制作の作品が出そろってからである。今年はどんないい作品が現れるかと、いつものことながら期待で胸が膨れてくる。

そう言うとオーバーな言い方だと思われるだろうか。そうかもしれない。卒業制作と言ってもまだ一人前にもならない若者たちの実習の作品である。いい作品と言ってもタカが知れているんじゃないか、と。しかし、わが校の卒業制作作品にはこれまでの素晴らしい実績がある。国際映画祭で受賞した作品もあるし、一般の劇場で公開された作品もある。

映画批評家・映画史家という職業柄、私は古今東西の無数の映画を見てきているのだが、そういう私が、学生の卒業制作作品では、こんな映画は見たことがないとびっくりするような表現にしばしば出会う。それがわが校の卒業制作発表会なのである。実はそれは、プロならこうするという定石がまだ身につけていないためなのかもしれないし、学生諸君としてはまず基礎的な技術をしっかり身につけることのほうが将来のためには大事で、別に校長をびっくりさせるために何か変わったことをやる必要など全くない。しかしなにしろ日本映画学校の学生たちは熱心で、無我夢中でやっていると、どこかで彼ら自身のナマの声の結晶のようなものがきらめく瞬間が出てくる。私はそんな瞬間を目撃するたびに、その喜びをどういう言葉にしたらいいのか心が躍るのだ。

学生諸君にとっての勝負は、これから何年かあと、現場で一人前の名乗りをあげるときである。いま私にほめられる必要なんて特にない。しかし、私は勝手にほめる。なぜなら、私は映画学校の校長である前に、映画批評家だからである。さあ、ほめ殺されないように用心しろ!

学校長 **佐藤忠男**

映像科

第22期映像科143名

映画演出コース51名 脚本演出コース9名 映像ジャーナルコース18名
撮影照明コース23名 映像編集コース24名 音響クリエイターコース18名

映像科卒業制作は昨年春から準備を始め、プロの講師陣の指導のもと、演出や撮影のみならずスケジュールと予算の管理、撮影場所の交渉、キャスティングなど、完成までに至る全てを学生たちが手掛けました。

●● シナリオの力

三年前、1年次の夏休みの課題で、諸君全員、二百枚のシナリオを書かされましたね。僅か四ヶ月足らずの勉強で、なぜこんな過酷な宿題を課すのか？ 諸君はそれに挑戦し、次の専門課題に立ち向かった。そして三年、卒業制作で初めて今、二百枚シナリオの努力と成果が問われる機会に直面する。

脚本コースの諸君は毎年のように、シナリオ作家協会の新人シナリオコンクールに話題作を提供してきたし、映画演出コースはここに登場する卒業作品に粒よりのシナリオを提供している。映像ジャーナルコースは、三十分以上の中編ドキュメンタリー作品の構成に、シナリオの基礎力が不可欠なことに直面した筈だ。

シナリオを甘く見るな！

卒業の機会に改めて助言する。人生設計のシナリオをしっかりと書き続けてくれ

副校長 千葉茂樹

●● もっと映画を好きになれ！！

と云う檄は、実は少しおかしい。この学校は「映画」を学ぶ学校だ。「映画とは何か？」から始まり「歴史」「意義」「特質」そして「創り方」までを実習を通して濃密に学ぶ場所なのだ。

もとより映画を嫌いな人が来るはずはない。しかし、「嫌いではない」と云うぐらいの理由で入学してくる若者が増えてきているから話はややこしい。「映画を嫌いではない」ぐらいの人は、映画館に行って映画を観るに留めておく方が良い。何の問題も無い。しかし、この学校は、そうは行かない。「映画が好き」でなければ入学する意味が無い。

先ず問おう。「君は、3年間でより映画を好きになったか？」と。より好きになったとすれば「どのくらい好きになったか？」と。ちょっと、眼が泳いだな？ 大丈夫、心配するな。諸君には3年間映画と闘った濃密な実績があるのだ。ここに揃った作品群は紛れもなくその証だ。

だから、敢えて檄を飛ばす。「もっと、もっと映画を好きになれ！！」全ては、そこから始まる。

青春二十一、遅くはないッ。

映像科3年 学年主任 細野辰興

凡 -bon-



●●● 技術コースA班

(撮影照明コース+音響クリエイターコース+映像編集コース合同)

団地に住む結婚三年目の専業主婦・幸子は、安定した生活ではあるが満たされないものを感じる日々の中、ホームレスの保と出会う。保の生き様に触れ、ただ平凡でありたい自分が求めるものとは何か？ 葛藤の中、幸子が出した答えとは…。

[ドラマ / 16mm / 30分]

【キャスト】

今井祐子
河野安郎
木村ふみひで
仙頭美和子
和田光沙
岩崎聡子
森岡 龍
すぎもとみさき
谷尾宏之
松山侑叶
殿下屋翼
中田潤平
横山 純

【アドバイザー】

脚本演出 栃原廣昭
録音 中山隆匡
編集 境 誠一

【統括】

石渡 均

【学生スタッフ】

監督・脚本 石塚崇寛
プロデューサー 守中優豊
副プロデューサー 高原由香里
助監督 小林尚希
瀧川三智
佐藤 結
美術 赤塚美幸
奥原亜佑美
小河史典
撮影 根本 剛
重田純輝
上村奈帆
照明 山口慎吾
伊東尚輝
小川健太
西山竜弘
録音 尾川麻奈
浅沼直貴
川手伸哉
友坂愛芽
編集 多勢太一郎
青柳 薫
小河史典
奥原亜佑美
佐藤 結
高原由香里
瀧川三智
嶺本謙一
記録 多勢太一郎

SIGN POLE



●●● 技術コースB班

(撮影照明コース+音響クリエイターコース+映像編集コース合同)

暇な床屋の主人・成田誠一の唯一の楽しみは、たまに店にやって来る小学生の隆一と遊ぶこと。隆一の父親・陽一は無職のギャンブル好き。そんな冴えない男二人が、隆一を接点に人生をかけた？ 波乱を巻き起こす！ クスッと笑える人情喜劇。

[ドラマ / 16mm / 30分]

【キャスト】

伊奈稔勝
松井天斗
熊谷瑠衣
石村みか
針原 滋
大塚祐也
中村貴子

【アドバイザー】

脚本演出 栃原廣昭
撮影照明 石渡 均
録音 中山隆匡

【統括】

境 誠一

【学生スタッフ】

監督・脚本 藤原崇広
プロデューサー 猪瀬優子
副プロデューサー 田中 道
制作 葛西浩平
金山慶成
助監督 山口 潤
吉野紗代
藤るり子
中居 駿
撮影 清田裕真
小泉義一
瀬戸詩織
照明 丸山勇樹
長谷川剛
録音 成ヶ澤玲
笠貫瑞穂
杉原広樹
原みさほ
編集 金山慶成
藤るり子
山口 潤
吉野紗代
記録 赤井まい



姉と妹



技術コースC班

(撮影照明コース+音響クリエイターコース+映像編集コース合同)

華やかでしっかり者の姉・蒼衣と地味で努力家の妹・茜。ある日、父との争いが原因で蒼衣は間接的に茜に怪我を負わせ、不自由な体にさせてしまう。仲の良かった姉妹の間にできた見えない壁。次第に深まる溝が、新たな事件を引き起こす。

[ドラマ / 16mm / 30分]

【キャスト】

黒田めぐみ

荒川理央

澤 純子

水口助弘

水谷浩之

河口 玄

秋山 寛

長井美津紀

細川美央

大谷由梨佳

紺野雅裕

武井良憲

【アドバイザー】

脚本演出 栃原廣昭

撮影照明 石渡 均

編集 境 誠一

【統括】

中山隆匡

【学生スタッフ】

監督・脚本 佐々木夕姫

プロデューサー 岡部卓史

副プロデューサー 蟻川真也

助監督 大和昌樹

小島かほり

三森将希

木根達也

美術 福山悠太

ヘア・メイク 荒川 桜

撮影 穴田香織

浮邊佑希

對馬和則

照明 近江嘉治

三嶋 宏

中山吟弥

録音 長倉美希

安川真司

高橋朋世

編集 福川 諒

村越 徹

矢野民奈子

丸山流美

記録 丸山流美

溺溺



映画演出コース

+ 技術コース合同A班

平凡な大学生・真島は、ひよんな事からスッポン料亭の娘・美崎に誘われ、郷里に彼女・弓子がいるにも関わらず、ずるずると肉体関係に溺れていってしまう。卒業後、弓子と結婚し働き始めた真島の前に、突然美崎が現れる…。

[ドラマ / 16mm / 35分]

【キャスト】

榎原 順

和田光沙

中野裕斗

矢崎初音

加瀬慎一

なかみつせいじ

棚瀬基世

【アドバイザー】
撮影照明 石渡 均

録音 中山隆匡

編集 境 誠一

【統括】

細野辰興

【学生スタッフ】

監督・脚本 布施直輔

プロデューサー 小松原裕太

副プロデューサー 上倉健太

制作 笠原洸樹

杉野善朗

田辺涼二

二宮英之

助監督 浅見佳史

柳川 光

松井智大

間方隆一

演技事務 畑雄一郎

美術 渡邊龍之介

撮影 小泉義一

伊東尚輝

赤塚美幸

照明 近江嘉治

小林尚希

録音 原みさほ

杉原広樹

小島かほり

尾川麻奈

川手伸哉

編集 荒川 桜

青柳 薫

赤井まい

葛西浩平

瀧川三智

記録 藤るり子



遠影



●●● 映画演出コース + 技術コース合同B班

二年前に父・良夫を自殺で亡くし、それ以来亡き父の影に縛られて生きている聡は、前向きに人生を歩み始めている母・町子の姿に理解を示せないでいた。そんなある日、聡は父の遺品から“ある名刺”を見つけ、父の過去を探り始める。

[ドラマ / 16mm / 35分]

【キャスト】
柳田龍馬
小林かおり
石原辰己
松山美雪
山中敦史
長谷部浩幸
横田大河
西 史明
櫻井拓也
乗原 聖
朝霧靖子

【アドバイザー】
撮影照明 石渡 均
録音 中山隆匡
編集 境 誠一

【統括】
鳥井邦男

【学生スタッフ】
監督・脚本 坂元亮介
プロデューサー 小林恵実
副プロデューサー 五藤 陵
制作 大橋 亮
鈴木孝昌
助監督 須永桂太
豊田翔平
壺井 濯
遠藤圭悟
美術 松本めぐみ
衣裳・メイク 畠中威明
撮影 守中優豊
瀬戸詩織
根本 剛
照明 三嶋 宏
長谷川剛
中山吟弥
録音 成ヶ澤玲
浅沼直貴
友坂愛芽
佐々木夕姫
編集 丸山流美
猪瀬優子
高原由香里
藤原崇広
吉野紗代
記録 多勢太一郎

おっつてくらんし



●●● 映画演出コース + 技術コース合同C班

四方を山に囲まれた静かな村。アキはそんな村に住む元気な女の子。ある夏休み、アキは村のはみだし者・司郎と自転車の練習をする。親子のような2人の毎日が楽しく過ぎていく。しかし、幸せな夏休みにも終わりはやってきて…。

[ドラマ / 16mm / 35分]

【キャスト】
寺本純菜
小林勇樹
泉水美和子
三好波津子
夏目行雄
勝山未悠
田島聖那
陸 空

【アドバイザー】
撮影照明 石渡 均
録音 中山隆匡
編集 境 誠一

【統括】
井坂 聡

【学生スタッフ】
監督・脚本 大西栄理子
プロデューサー 渡辺 桂
副プロデューサー 金井洋亮
制作 小松洋平
ミッチェル・マリオ
助監督 東谷一樹
長谷川卓也
齊藤あゆみ
美術 亀山紗千
佐久間航
衣裳 佐藤 毅
生物管理 藤崎仁志
撮影 浮邊佑希
重田純輝
穴田香織
照明 上村奈帆
清田裕真
西山竜弘
録音 岡部卓史
大和昌樹
笠貫瑞穂
木根達也
編集 金山慶成
奥原亜佑美
田中 道
中居 駿
矢野民奈子
嶺本謙一
記録 北濱優佳



つながり



●●● 映画演出コース + 技術コース合同D班

ごくありふれた家族だと思っていた敦子は、ある時偶然、母が実の母親でないことを知る。そのことをきっかけに、敦子と父、母、弟それぞれの家族に対する想いがぶつかり始め、敦子は家族の崩壊に直面することになる…。

[ドラマ / 16mm / 35分]

【キャスト】
見上寿梨
斉藤とも子
田中隆三
久野雅弘
魚谷輝明
天野なおこ
千葉ペイトン
藤森美雪
森羅万象
加藤貴博
いちご姫
三森メロ

【アドバイザー】
撮影照明 石渡 均
録音 中山隆匡
編集 境 誠一

【統括】
富樫 森

【学生スタッフ】
監督・脚本 井手博基
プロデューサー 竹内健二
副プロデューサー 濱野達郎
制作担当 作石敏幸
制作 黒田俊輔
島田裕輔
河野健佑
助監督 岡 純子
新井友紀子
田中麻衣
佐直輝尚
伊藤暢宏
美術 内山裕太
撮影 山口慎吾
小川健太
對馬和則
照明 石塚崇寛
丸山勇樹
琴田啓輔
録音 三森将希
安川真司
蟻川真也
長倉美希
高橋朋世
編集 村越 徹
小河史典
福山悠太
山口 潤
福川 諒
記録 佐藤 結

おおきいもの



●●● 脚本演出コース + 技術コース合同

田舎町で家業の酒屋を手伝っている智哉は、ある日、中学の同級生・夏樹と再会する。「あの時のこと許して欲しかったら、私の言うことを聞いてよ」智哉はしだいに、夏樹によって振り回されていく…。

[ドラマ / HDV / 35分]

【キャスト】
藤 達成
鈴木なつみ
溝口園枝
富岡忠文
板橋駿谷
富樫 渉
下山ちえ子
佐藤葉子

【アドバイザー】
撮影照明 石渡 均
録音 中山隆匡
編集 境 誠一
技術 浜口文幸

【統括】
渡辺千明

【学生スタッフ】
監督 亀井壮太郎
脚本 関 貴幸
亀井壮太郎
プロデューサー 栗原里志
副プロデューサー 関 貴幸
制作 山口 潤
大和昌樹
杉原広樹
助監督 橋内裕人
萩尾 悠
美術 赤木良輔
笠原 希
衣装・メイク 古澤嶺美
撮影 小川健太
赤塚美幸
照明 重田純輝
對馬和則
琴田啓輔
録音 尾川麻奈
小島かほり
三森将希
大和昌樹
編集 丸山流美
村越 徹
赤井まい
佐藤 結
記録 赤井まい



サムローイ ~あるカンボジアの少女を追って~



映像ジャーナルコースA班

東南アジアにあるカンボジア。そこで出会ったストリートチルドレンと、彼らの支援を行っている人々。日本で暮らしていると、ほとんど意識することのない彼らの生活を追ったとき、日本人である私達は、彼らから何を感じるのだろうか？

[ドキュメンタリー / HDV / 40分]

【学生スタッフ】
企画・監督 武藤隆義
撮影 川本和実
助監督 豊島直人

【登場人物】
Rita
Channa
Leung Vuthy

【アドバイザー】
企画 安岡卓治
技術 浜口文幸

【統括】
千葉茂樹

埋める空白 ~毒ガス被害者と弁護士~



映像ジャーナルコースC班

2003年、中国チチハルで旧関東軍の残した毒ガス兵器による事件が起こった。被害者を助ける穂積匡史弁護士は、ある被害者の証人尋問の担当となる。一週間来日した被害者との打ち合わせを通して、お互いの裁判にかけられる思いを語る。

[ドキュメンタリー / HDV / 40分]

【学生スタッフ】
企画・監督 福井崇志
プロデューサー 金井 翼
撮影 中村雄人
録音 金井 翼
編集 北川帯寛

【登場人物】
穂積匡史
王立冬
李双義
施青
徐志夫
千景芝

【アドバイザー】
企画 安岡卓治
技術 浜口文幸

橋田亜由美
吉見義明

【統括】
千葉茂樹

島国に咲く紅い華



映像ジャーナルコースB班

在日中国人三世である私の伯父は、ある時、福建省にいる親戚の子供を日本に呼び寄せる。中国とのつながりを持たない三世が多い中、伯父はなぜその子と呼んだのか？ 四世である私は、伯父の祖国への想いを知らうとカメラを回し始めた。

[ドキュメンタリー / HDV / 40分]

【学生スタッフ】
企画・監督 林 隆太
プロデューサー 直井佑樹
撮影 伊藤博之
録音 公文辰也
編集 直井佑樹
吉田晃太

【登場人物】
李鐘雲
林秀之
李振瑞
李雅清

【統括】
千葉茂樹

【アドバイザー】
企画 安岡卓治
技術 浜口文幸

いつかまた天国で



映像ジャーナルコースD班

町田南キリスト教会。この教会は、牧師であり父である鈴木邦俊を中心に家族で運営されていた。しかし2009年、長男・邦義と父・邦俊が相次いで他界してしまう。家族の死に向き合おうとする、あるクリスチャン一家の日常をカメラは捉える。

[ドキュメンタリー / HDV / 40分]

【学生スタッフ】
企画・監督 富樫 渉
プロデューサー 藤本一路
撮影・編集 寺崎みずほ
録音 渡邊路子

【登場人物】
鈴木聖仕
鈴木大輝
鈴木七絵
鈴木美絵
田谷敏貴

【アドバイザー】
企画 安岡卓治
技術 浜口文幸

町田南キリスト教会の皆さん

【統括】
千葉茂樹



こちらから
ジャンプ!!



ブログ
「ほんじつ映画学校」

俳優科

第23期 俳優科29名

俳優科卒業ドラマ作品は監督を始めプロのスタッフの方々による制作で、俳優科学生全員が出演しました。

●● 走りながら考えろ

この二年間、我々は「キャスティングされるのを待つだけの俳優」を拒絶し、「自分で発信する覚悟を持つ俳優」を目指してきた。

内に隠れた言葉を探し衝動に忠実に動く。相手の存在に反応し互いの感情を交差させる。テキストを深く読みぎりぎりのリアルを表現する。自分たちで物語を作って架空の時間と空間の中に身体を置き、第三者に伝えることの限界と可能性を知る。

卒業ドラマはそれらの実験の積み重ねから生まれた。彼らとのディスカッションを原案に天願が二本脚本を書き、井土、萩生田両監督が渾身の力で作品を作った。二年前、冴えない高校生だった彼らは、ただの負け犬ではないことを証明できただろうか。二年間の実験は彼らに幾分かのプライドとタフネスを与えただろうか。

俳優になるには免許も資格もいらない。では何があれば俳優になれるのだろうか。容姿や才能はあるに越したことはない。しかし一番重要なのは「強い欲望」なのだと、二年間彼らと共に過ごした今、私は考えている。

俳優科 2年担任 天願 大介

●● 新たな挑戦

今回の俳優科卒業ドラマの原案は二作品共、出演した彼等である。担任の天願氏の方針で、一年次から己の発想を基に、如何にイメージを広げられるか、と云う訓練を積み重ねて来た一つの集大成と言ってもいいかもしれない。俳優の表現は無論肉体と精神がリンクした時に力を持つものであろう。しかし、そうは簡単に出来る筈もない。

実際現場で、井土組は泥沼の中で、「パンツなんか気にするな！ 集中しろ！」と怒鳴られ、もがき苦しむ一方、萩生田組は、都会の街中を全力疾走していた。そこで彼等は何を思い、何を感じた事であろう。そう、己の手を汚さない栄光なんか、やはりある訳ないのだ。その事を知った彼等がこの先どのような表現体になって行くのか大いに楽しみである。

最後までお付き合い下さった両監督、そして、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

俳優科 専任講師 加瀬 慎一

泥の惑星

【出演】



千葉美紅 上川原睦 折原拓也 矢崎初音 小山利英
 岩沢秀平 金井俊太郎 勝呂洋介 小林歩祐樹 九十九紘夢
 柏下仁美 高橋篤弘 杉山真司 井上千裕 佐藤未来

五十嵐彩佳 加瀬慎一



●●● 俳優科卒業ドラマ

ハルキは、天文部のアキに恋をした。すべてに反抗するアキは、どうして夜、屋上で星を見続けるのだろう。孤独な青年・杉浦はハルキに何を伝えようとしたのだろう…。農業高校を舞台に描く、切ない青春の物語。

[ドラマ / HDV]

【スタッフ】

企画・製作	日本映画学校	整音	福田 伸
プロデューサー	天願大介	整音助手	加藤詩織
	加瀬慎一	効果	佐藤祥子
協力プロデューサー	吉岡文平	カラーリスト	稲川実希
監督	井土紀州	ポストプロダクション	Cinema Sound Works 中山隆匡
脚本	天願大介	制作進行	吉川正文
原案	23期俳優科	制作応援	富永威允
撮影	高橋和博		桑原広考
撮影助手	俵 謙太		佐野真規
照明	吉川慎太郎	制作デスク	大西弘幸
照明助手	玉川直人	スチール協力	内堀義之
	蟻正恭子	エキストラ協力	24期俳優科有志の皆さん
録音	岩丸 恒	ロケ協力	麻生市民館
録音助手	蟻川真矢		神奈川県立相模原青陵高等学校
	藤島敬弘		後藤花園
助監督	川崎龍太		寒川町役場 産業振興課
	大竹 徹		さむかわ中央公園
装飾	森田博之		ときわマンション
美術協力	植村まき子		渚住宅
メイク	増田加奈		平尾団地商店街
メイク助手	松丸知世		ホテル・割烹 ひふみ
衣装応援	石毛麻梨子	制作協力	スピリチュアル・ムービーズ
記録	成富佳代	協力	荒巻 肇 石塚崇央
編集	小林由加子		伊原伸一郎 今井将人
音楽	平山準人		後藤 進 谷脇邦彦
演奏	平山準人 (sax)		長谷川美恵子 山本隆世
	穴田貴也 (cello)		山守佑典 渡辺美穂子
	中村浩之 (piano)		CLEO
	janmah 島村 (guitar)		SAZANAMI MARINE
	服部将典 (bass)		アテネ・フランセ文化センター
	荒井康太 (drum)		スタンスカンパニー
劇中歌	「小田急ロック」		トヨタレンタリース神奈川
	作詞 花咲政之輔		パラディス イン 相模原
	作曲 花咲政之輔 村山同志		柳旅館

俳優科の学生諸君が原案を考え、それを天願大介氏が脚本にする——これは私にとって本当に難しい企画だった。監督をするうえで、企画立案の場に参加せず、自分で脚本も書かないという経験を、私はこれまでしたことがなかったからだ。そのようにして出来上がってきたシナリオとどう格闘するのか、それがまず私にとってのテーマだった。

自分が書いたシナリオなら、登場人物が自分の中で生きているから、その人物像を俳優に伝え、話しながら芝居を作り上げていけばいい。しかし、今回は私自身が人物を掴み切れていないから、役者とリハーサルを重ねながら、人物像を探らなければならなかった。そこで私は七転八倒することになったが、若き俳優たちは本当に頼りになった。自ら考えた人物像をどんどん私にぶつけてきた。そして、そこには年齢や学生という立場など感じさせない役者の知性と信念を感じた。

私がみなさんに送るメッセージはここには書かない。ミスター留年・杉浦という人物と格闘する過程で、シナリオに書きわえたからだ。

それは映画の中にある。

映画監督 **井土紀州**



世界に理由はない。だから

【出演】



松原祐允 大分彰子 河原杏子 猪俣 健 松本大樹
 秀島貴明 外野博幸 福富信之 市川 聖 藤田瑞希
 影山翔一 西尾 航 海老原晃 森真裕子 エレーナ・S
 加瀬慎一 井村 昂



俳優科卒業ドラマ

田中準一は、人生の目的を見つけれないまま変化のない毎日を送っていた。そんな彼の前に突如として巨大な文字が現れ、宇宙からやって来た男が世界の終わりを告げる。地球最後の日、彼の導き出した答とは…。

[ドラマ / HDV]

【スタッフ】

企画・製作 プロデューサー	日本映画学校 天願大介 加瀬慎一	仕上げ担当 ポストプロダクション 制作デスク 題字	岩丸 恒 Cinema Sound Works 中山隆匡 大西弘幸 小松洋平 矢野勝敏 島崎鳳濤 豊田翔平
監督	萩生田宏治	書道協力	川崎市アートセンター 戸村陽子
脚本	天願大介	エキストラ協力	柴野 淳 河野周悟 齋藤はな 齋藤美弥 佐藤明音 谷山 拳 谷山ことね 谷山そのら 津田裕生 真嶋 悠 吉田和規
原案	23期俳優科		22期映像科有志の皆さん
撮影	伊藤 寛		平野晋子
照明	山本浩資		木村 桂
録音	藤本賢一		APEXII
編集	太田義則		サカイ食堂 居酒屋なんむら 伽羅
音響効果	中山隆匡		町田第三団スカウトハウス コロンプス
助監督	金子直樹		協力 谷内邦恵 伊藤 啓 尾崎まみこ ZOO
制作担当	佐藤圭一朗		マニユアル・オブ・エラーズアーティストツ トヨタレンタリース神奈川 ニッポンレンタカー新百合ヶ丘営業所
音楽	きだしゅんすけ	スチール協力	
バイオリン	河部靖仁	機材協力	
美術応援	深尾洋子 渡辺大智 山中 同 毛塚俊太 大川哲史 中野有香	ロケ協力	
制作進行			
製作応援			
映像科有志			
監督助手	藤崎仁志 齊藤あゆみ 小松洋平 瀬戸詩織 根本 剛 清田裕真 浅沼直貴 小山海太 成ヶ澤玲 伊藤 彩 加藤亮太 笹原 聡 田中悦子		
撮影照明助手			
録音助手			
整音助手	井上静美 河合 健 塩崎竜朗 谷村 龍		
製作応援			

昨年の夏、俳優科の学生たちと始めて会った。卒業制作に向けて話し合っ作ったという一見不可思議なプロットから、それまで「世界の理由」にがんじがらめになって生きてきた彼らの悲鳴のようなものが聞こえた。

出来上がった脚本は、理解を寄せつけない摩訶不思議な魅惑に満ちており、行く先が定かでも今いる場所から飛び立ちたいと願う高い体温のようなものを感じた。演じることが別の世界に飛び立つことだとすれば、その離陸する姿を見てみたいと思った。

本番ではテイクを重ねた。自らの動力で飛び立つ瞬間を待った。撮影した素材は10時間近くになっていた。

ひとりひとりがどこまで飛べたのか、それはすべて作品に映っている。飛べなかった者の悔しさは次の飛行の助けになるに違いない。

自らの高度を上げ、飛行距離を伸ばして行くためには、強かに、そして貪欲に離陸と着陸を繰り返して行くしかない。時に、思わぬ逆風に見舞われて方向を見失い、操縦桿を握ることさえままならず、のたうち回った末に、自分でも信じられない高度まで上昇し、気付けば知らなかった土地に着陸していることもなくはない。

卒業制作を共にし、私たちの前には途方もなく続く長い滑走路があるだけなのだ、と強く思った。

映画監督 **萩生田宏治**



第23期 俳優科

学生紹介

29人

生年月日 / 身長 / 体重



8



折原拓也

おりはら たくや

1989年9月25日 / 170cm / 58kg



俳優科卒業ドラマ
『泥の惑星』より

9



影山翔一

かげやま しょういち

1989年10月13日 / 174cm / 56kg

10



金井俊太郎

かない しゅんたろう

1989年12月2日 / 168cm / 58kg

11



上川原睦

かみがわら あつし

1989年7月19日 / 175cm / 66kg

12



河原杏子

かわはら きょうこ

1987年12月5日 / 164cm / 48kg

13



小林歩祐樹

こばやし ふゆき

1990年2月3日 / 180cm / 70kg

14



小山利英

とやま としひで

1989年10月5日 / 167cm / 56kg

15



佐藤未来
さとう みく

1990年2月8日 / 152cm / 39kg

16



杉山真司
すぎやま しんじ

1985年7月9日 / 172cm / 60kg

17



勝呂洋介
すぐる ようすけ

1989年6月25日 / 173cm / 75kg

18



高橋篤弘
たかはし あつひろ

1987年5月2日 / 167cm / 60kg

19



千葉美紅
ちば みく

1989年5月30日 / 162cm / 52kg

20



九十九紘夢
つくも ひろむ

1990年3月5日 / 170cm / 60kg

21



西尾航
にしお わたる

1987年8月5日 / 183cm / 66kg

22



秀島貴明
ひでしま たかあき

1983年8月27日 / 176cm / 65kg

23



福富信之
ふくとみのぶゆき

1987年5月26日 / 169cm / 54kg

24



藤田瑞希
ふじたみずき

1988年12月12日 / 152cm / 60kg

25



松下仁美
まつしたひとみ

1990年1月5日 / 164cm / 54kg

26



松原佑充
まつばら ゆうすけ

1989年10月11日 / 170cm / 58kg

27



松本大樹
まつもと だいき

1989年11月5日 / 175cm / 53kg

28



森真裕子
もりまゆこ

1989年8月9日 / 162cm / 48kg

29



矢崎初音
やざきはつね

1989年11月10日 / 166cm / 54kg



俳優科卒業ドラマ
『世界に理由はない。だから』より

学生コメント

『溺溺』
プロデューサー
小松原裕太
(映画演出コース)

自分の将来に希望が持てず荒れに荒れ、親や周囲の人たちに迷惑をかけていた高校時代。そんなとき、学校をサボって何となく入った映画館で観た作品に心から救われ、映画を作る道を志しました。

そんな僕がスクリーンで自分の作品（『溺溺』）を観るといのは、とても感慨深いものがあります。今さら恥ずかしく、過去に迷惑をかけた人たちに面と向かって感謝を伝えることは出来ませんが、心身を削って生み出したこの作品を観て頂くことで、恩返しになればと思います。

映画は映るものが全てですが、この作品に協力して下さった方々、また家族や周囲の人の支えを思いながら、今回の上映を僕自身も楽しみたいです。

『つながり』
助監督
新井友紀子
(映画演出コース)

卒業制作で初めて担当した助監督の仕事。監督が気持ちよく演出できる環境を作り出すため、緊張感を持って現場を引っ張っていく重要な役割だ。時には心を鬼にして、大きな声でスタッフを厳しくまとめなければならない。常にものすごい緊張感で、とてもやり甲斐を感じたが、二日連続で撮りこぼしをしてしまった時は、さすがに現場を回せなかった責任で、胃を壊した…。

一日毎に次への課題を見つけ、前進している自分が実感でき、新たな映画作りの面白さを発見したこの経験を含め、演出コースでの二年間は、私を大きく成長させてくれた。

『遠影』
副プロデューサー
五藤 陵
(映画演出コース)

制作実習では、制作部を担当することが多かった。ロケハンでは、使用条件の交渉、機材置き場等の確保、そして、他のロケ地との空間的なバランスなど、多岐に渡った要素を考慮しなくてはいけない。制作部の仕事はそのまま作品全体の演出へとになっていくのだ！「スタッフは全て演出家だ」というある講師の言葉の意味が実習を重ねて分かってきた。

シナリオを読み、作品が何を求めているのかを必死に考え、更に面白くなるように+αをしていく。「監督が決める事だから」と逃げずに自発的に関わっていくことが大切なんだと思う。

これからプロの作品についても「これは自分の作品だ！」という気持ちを忘れないよう、映画作り全てを楽しんでいきたい。

『いつかまた天国で』
撮影・編集
寺崎みずほ
(映像ジャーナルコース)

この原稿を頼まれたのは、卒業制作の編集真っ只中！こんな時に書けるかーと思ったけど、この三年間を振り返りつつ書くことにしました。

この作品で、私は編集だけでなく、撮影も担当しました。編集中は、自分の撮影の至らなさを目の当たりにし…自分を呪う日々です。それでも、撮影した素材と編集で向き合うことで、改善点が徐々に見えてきて、次回の撮影にこの経験を活かせるぞ！と前向きになります。

この三年間、分からないこと、納得できないこと、答えが出せないことの連続の大変な毎日でしたが、やっぱり映画を作りたいーと思う自分が今ここにいます。だから、とにかく映画と共に走り続けます！

よし！編集がんばるぞー

『おおきいもの』
助監督
萩尾 悠
(脚本演出コース)

脚本についても、演出についても、“人と人がどう関わるか”を学んだ三年間でした。人の感情の微細さを忘れて、安易に脚本を書いてしまったり、撮影現場にいてしまったりと、ダメな私でした。自分には真摯さが足りないと、今も反省中です。

この原稿を書きながら、三年間に会った多くの人達の言葉が、頭に浮かんできました。厳しい言葉もありましたが、確実に自分の糧になっています。気どらずに愚直に、ということに頭に叩きこんで、嘘っぱちの無い言葉をつづりたいです。これからも続けていくことで学んだ恩を返したいと思います。

『泥の惑星』
ヨシキ役

折原拓也

(俳優科)

「仲間」という存在がとても大切だと実感した、俳優科での2年間だった。役者になりたくて、幼いころから知っていた映画学校の俳優科に入学した。元々集団で何かをすることが苦手な性格だったので、そのことが直ぐに露呈してしまった。一人で稽古がしたく、役者は個人技だから、と誤った考えで、周囲を拒絶し自分の殻に籠った。しかし、それは間違いだということに気づいた、いや「仲間」に気づかされたというべきだ!

映画は一人では出来ない。「仲間」のいる素晴らしさと大切さ。これからどんな未来が待っているよと、「仲間」と共に過ごし、自分に変革をもたらしてくれたこの二年間は、決して忘れることの出来ない時間(とき)となるだろう。

『世界に理由はない。だから』
相田ミチル役

大分彰子

(俳優科)

私が演じたミチルは、明るくて爽やかでみんなに愛される女の子だ。私が全く経験したことのない世界だった。戸惑って、迷ってわからなくなった。「お前はミチルだ。ミチルになれ!」現場で何度も言われた。「私はミチルだ!」何度も自分に言い聞かせた。最終日、監督に「よかったよ! どうしたの?」と言われ、びっくりした。「ミチルになれた!」

毎日朝早くから夜遅くまでサポートして下さったスタッフの皆さん、そして、共演者のみんなのおかげです。ありがとうございました。

卒業。次はまだ何もない。だけど、何かハッキリしたものを掴んだ気がする。

『SIGN POLE』助監督・編集
『遠影』編集

吉野紗代

(映像編集コース)

「編集は、繋げばいい」入学当初はそう思っていました。一本の作品の中に生きている「人」を作り出す作業はとても難しい事です。現場で、演出・撮影・録音がどれだけ上手くいっても、「人」を生かすも殺すも編集の力量です。感情の流れを作り上げ、役者さんを更に生きている「人」としてみせる。こんなにも奥深いとは思いませんでした。

「編集とは構成である。間で編集しろ!」講師の言葉が三年になってやっと理解できた気がします。

『姉と妹』プロデューサー
『おってくらんし』録音

岡部卓史

(音響クリエイターコース)

録音を学ぶ私は、技術コースの卒業制作「姉と妹」でプロデューサーを務めました。すべてが初めてのことばかりで、混乱の毎日。さらに悪いことに、スタッフ間の人間関係もギクシャクする始末。あんな事やこんな事…色々起こりました。でも最終的に、そんな内情(どんな内情!?)を感じさせない素敵な作品になりました。ぜひ、ご堪能ください!

今までとは違う立場で携わった作品は、良い意味でも悪い意味!?!でも一生忘れられない映画になりました。

『凡・Don・』脚本・監督
『つながり』照明

石塚崇寛

(撮影照明コース)

撮影部・照明部の技術の結果は、全てフィルムに焼き付く。言い訳はできない。だから、試写はいつも緊張した。心拍数が上がり、吐き気を感じる。そして、大概、がっかりすることに…。それに拍車をかけるように「学生だから」という一言で一蹴されてしまう現実。それが何よりも悔しかった。けれども、ごく稀に満足の行くカットを撮影でき、担任講師が仰った「技術は裏切らない、技術は素晴らしいんだ」との言葉を身を以って実感することができた。

また、映画を作っていて、事ある度に自分の未熟さを痛感させられ、実習を重ねるにつれて映画が怖くなって行った。私は、とんでもない世界に足を踏み込んでしまったと、今、改めて思っている。

卒業制作にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

協賛：コダック株式会社 富士フイルム株式会社 報映産業株式会社 制作協力：株式会社ヨコシネ ディーアイエー

『凡 - bon - 』	小田急バス	『遠影』	笹反晃	田島絵美	徳山武昇	川尻翔吾	富永由起子
木村綾 (昭和音楽大学)	アリーナつきみ野スポーツクラブ	小野雄飛	塩塚玲	廣木重雄	萩原正道	三好萌	佐藤香代
JASRAC	ニッポンレンタカー新百合ヶ丘営業所	高尾はゆる (昭和音楽大学)	鈴木麻莉野	高野幸雄	前田ゆかり	アイデア・リサイクル不用品回収センター	菅野園子
アプレ	観音崎 はたご	新堀ギター音楽院	田川ちか	山口優	武智雅史	岩漁業組合	井堀哲
プレス		JASRAC	竹内靖宣	梶原まむし養殖所	宮田宗吉	うに清	旧相模海軍工廠毒ガス被害者の会
アルファセクション	『溺溺』	サークルホーム	武田和子	吉澤企画	山崎広	小田急バス	山口千三
ワンダー・プロダクション	鈴木健太	臺 邸	中村明	坂本養鶏	桑田コジロー	栗原君子	原寿男
サムライブロモーション	スタント	RESTAURANT&BAR スペイサイド	新津幸男	はせ川はく製	作石正太郎	清水哲平	斎藤悟郎
スマイルモンキー	じゃーじー真輝糸洲	相模原メイプルホール	仁村俊祐	第36回高津区民祭実行委員会	作石みゆき	渋谷睦美	佐々木正也
アクティブ サンパレス池田	竹下耕平	Club ROYAL	根子智子	麻生区役所	島田和子	真鶴町役場	李樓
相鉄ローゼン たいら店	ベストプレーン	中野島稲荷神社	野中博	あきる野市役所	濱野駒代		羅麗娟
東叶神社	リキプロジェクト	第三丸町ビル	林原なつ希	あきる野市乙津青木平熊野神社	エイブル	『サムローイ ～あるカンボジアの少女を連れて～』	北宏一郎
浦賀商友会 浦賀駅前商店会	エビス大黒舎	広田医院	広町和子	檜原村役場	銀座ホール	特定非営利活動法人 国境なき子どもたち	杉山紀一郎
浦賀市民の皆様	芸能プロダクション&音楽レーベル Roots	神田猿楽町町会詰所	広町賢哉	三和プロライト	黒田病院	ドミニク・レギュイエ	藤井正實
橋リサイクルコミュニティーセンター	守屋商会	代々木公園アートスタジオ	本間志げ子	映像サービス	南海口ケーションサービス	清水匡	藤本安馬
	インクループ	神田すずらん通り商店街振興組合	前田忠保	あきるの市青木平自治会のみなさん	稲木松葉アパート	バットン/バン 若者の家 スタッフ	王洪瑛
『SIGN POLE 』	ぶらっすりー あ一屋	たまロケーションサービス	間野素子	あきる野市落合自治会のみなさん	海老名市役所	Kong Sophea	ABC 企画委員会
塩野海 (昭和音楽大学)	きそば便利屋	三恵レンタリース	宮本康弘	あきる野市養沢地区のみなさん	衣笠仲通り商店街協同組合	Long Leakhena	毎日新聞社デジタルメディア局
ガイプロジェクト	割烹一法	フクダ電子	矢島幸次郎	相模原市青山区鮎子地区のみなさん	土屋本店		川崎合同法律事務所
萩本企画 欽劇事務局	学校法人 神奈川歯科大学	東宝舞台・衣装部	山内節美	相模原市青根荒丸自治会のみなさん	平原商店	『島国に咲く紅い華』	山下基之法律事務所
スマイルモンキー	TECHNOWAVE100	高津装飾美術	山中亜沙子	相模原市青根東野地区のみなさん	りさいくらんど	林平	ピーブルズ法律事務所
ノックアウト	束健一	サンフォニック	横山純	足柄上郡赤田自治会のみなさん	八木ダンボール	叶雅云	虎ノ門法曹ビル
アルファセクション	千葉県君津地域整備センター君津整備事務所	川崎市橋リサイクルセンター	吉池巨成	愛甲郡三増区のみなさん	アー引越家	陳談	防衛省防衛研究所
SEA SIDE FRAIS	シャドウ・スタントプロダクション	猪瀬純子	米岡秀美	秦野市養毛地区のみなさん	和智周吾	Tim Yau	中国南方航空
金山家のみなさん	全国学生引越センター	篠塚謙司	渡邊亮	和歌山県古座川町宇津木区のみなさん	中野浩明	Athena Wang	板橋センターホテル
山口家のみなさん	栄作	聖蹟桜ヶ丘一丁目の皆さん		安嶋秀生	阿倍菜穂	任書剣	
麻生休日急患診療所	本庄ヒロキ	アクトレインクラブ	『おってくらんし』	浜崎響介	サンキューマート町田店	李云泰	『いつかまた天国で』
川崎競馬場	岡宮ゆき子	夢工房	塩野海 (昭和音楽大学)			李振太	町田南キリスト教会
春秋苑	板東俊晴	ラッキーリバー	誕生獅子保存会	『つながり』	『おおいもの』	李宗鋒	世田谷中央教会
桜川公園	矢鋪剛義	放映新社	音峰颯	碓英記	木村綾 (昭和音楽大学)	李琴	町田聖書キリスト教会
藤塚第三児童公園	八反田悦星	千装一男	佐藤美海	内田結子	シャドウ・スタンドプロダクション	林佐知子	国分寺バプテスト教会
川崎市役所	小崎裕基	長塩香津美	庄子琴美	アトリエ・ダンカン	Cinema Sound Works	林伸謙	日本ルーテル告白協会
川村製作所	進藤杏子	石井直美	黒岩佐菜	境事務所	アルファセクション	藤田智仁	安藤能成
集英社	豊蔵竜彦	石井奈水子	戸田史哉	コムシフト	箱根登山バス	北坩小學	山尾研一
橋リサイクルコミュニティーセンター	仁礼健太	岩野祐一	劇団 NLT	舞夢プロ	関隆	芳香園	Super Big Day
東宝舞台衣装	石原裕理	大園典子	S-CUBE	ロットスタッフ	こめいわ酒店	ホアンシー	MFC CONCERT FESTIVAL 2009
	野沢柳三	荻原義正	ショー・コスギプロダクション	スーパーボーイ	久保倉治男	横浜華僑総会	ずっと EZRA in Tokyo 2009
『姉と妹』	加藤容子	小野雄飛	山本文夫	ブレイブ	みよし旅館	横浜福建同郷会	Worship Generation Japan
高尾はゆる (昭和音楽大学)	笠原弘子	小野光恵	矢野ひとみ	NAC	熊本商店	横浜山手中華学校	hi-b.a.
ロットスタッフ	小口大樹	北川雅恵	矢野杏佳	赤石智	真鶴ダイビングサービス		松原湖バイブルキャンプ
スターダストプロモーション	角廣知哉	幸田知行	竹内純一	大友加奈子	日産マリナー真鶴	『埋める空白 ～毒ガス被害者と弁護士～』	浜名湖バイブルキャンプ
京王電鉄	森脇優子	小島靖子	大澤詩穂子	梅田誠弘	岡野敏明	チチハル弁護団	
Billiards & Darts cafe Blackies	村上弥生	小林圭	兼重淳	黒田昭弘	新井医院	小野寺利孝	
横浜国際女学院翠陵中学・高等学校	山本敬志	小松伸	原田文宏	近藤啓二	寺家町内会	南典男	
神奈川県立百合丘高等学校	大場圭人	斎藤大弥	市川六太郎	五味俊之	富岡忠文	三坂彰彦	
横須賀市 観音崎公園 たたら浜	渡辺千紘	斎藤裕司	市川節子	佐々木徹	河野健佑	山下基之	

	2月26日[金]	27日[土]	28日[日]
11:00	凡 -bon-	おっぺくらんし	島国に咲く紅い華
11:50	SIGN POLE	つながり	いつかまた天国で
12:40	姉と妹	姉と妹	つながり
13:30	サムローイ ～あるカンボジアの少女を追って～	SIGN POLE	おっぺくらんし
14:20	埋める空白 ～毒ガス被害者と弁護士～	凡 -bon-	遠影
15:10	いつかまた天国で	おおきいもの	濁濁
16:00	おおきいもの	島国に咲く紅い華	泥の惑星
16:50	濁濁	埋める空白 ～毒ガス被害者と弁護士～	世界に理由はない。だから
17:40	遠影	サムローイ ～あるカンボジアの少女を追って～	
18:30	世界に理由はない。だから	泥の惑星	